資　料　４－２

要点審議事業

道路事業　再評価

一般国道4号　盛岡南道路（もりおかみなみ）

令和6年8月5日
国土交通省　東北地方整備局

1. 事業の目的と概要

3年経過で未着工

○事業目的

・混雑緩和・事故減少
・地域産業支援・物流支援
・救急医療支援

○計画概要

起　終　点	：自：岩手県紫波郡矢巾町藤沢 至：岩手県盛岡市永井
延　　長	：７．４ｋｍ
幅　　員	：２４．２５ｍ～２５．２５ｍ
道路規格	：第３種第１級
設計速度	：Ｖ＝　８０ｋｍ／ｈ
計画交通量	：３７，９００台／日
事　業　化	：令和４年度
用地着手	：　－
工事着手	：　－

○事業費・進捗率

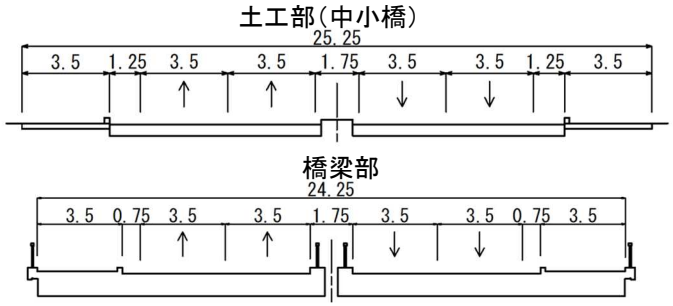
全体事業費 （新規採択時 評価時点）	※全体進捗率 （用地進捗率）	全体事業費 （今回）
380億円	約1% （0%）	380億円

※進捗率は令和6年3月末時点

位置図



標準横断図



平面図



凡例
：開通済
：事業中
□□□□：未事業化

その他道路凡例
道路種別
：評価対象区間
：高規格道路
：一般国道
：主要地方道・県道

車線数
：4車線
：2車線

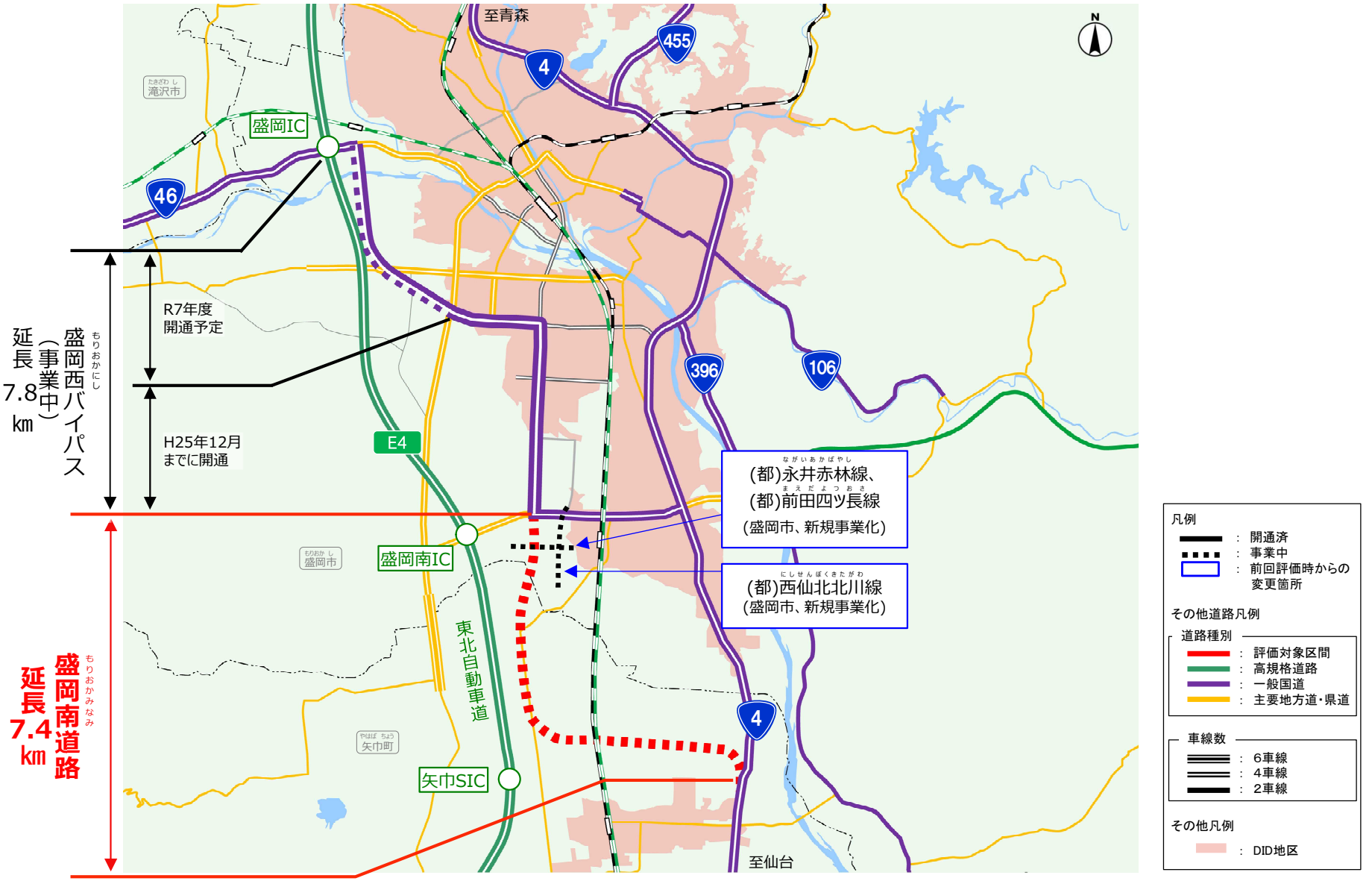
その他凡例
：市役所
：役場
：R3センサス交通量
：主要渋滞箇所

2. 前回評価時からの周辺環境等の変化

3年経過で未着工

◆盛岡南道路終点部付近では、(都)永井赤林線、(都)前田四ツ長線、(都)西仙北北川線が令和5年度に新規事業化。

▼周辺道路等の変化



3. 事業の投資効果

			前回	今回	変化	変 更 概 要
費用便益【億円】	全体	総便益B （現在価値）	654	719	+65	・計画交通量の見直し
		総費用C （現在価値）	275	307	+32	
		費用便益比(B／C)	2.4	2.3	−0.1	社会的割引率【4%】
			―	3.6	―	社会的割引率【2%】※
			―	4.7	―	社会的割引率【1%】※
	残事業	総便益B （現在価値）	―	719	―	―
		総費用C （現在価値）	―	303	―	
		費用便益比(B／C)	―	2.4	―	社会的割引率【4%】
			―	3.7	―	社会的割引率【2%】※
			―	4.7	―	社会的割引率【1%】※

※比較のために参考とすべき値として設定した社会的割引率。

○今回の費用便益分析(現在価値化)

全 体（億円）	便益 B	走行時間短縮	走行経費減少	交通事故減少	総便益
		707	12	1	719
	費用 C	事業費	維持修繕費	更新費	総費用
		276	31	―	307
	B／C				2.3
残事業（億円）	便益 B	走行時間短縮	走行経費減少	交通事故減少	総便益
		707	12	1	719
	費用 C	事業費	維持修繕費	更新費	総費用
		272	31	―	303
	B／C				2.4

○今回の感度分析

【全体】

交 通 量	(±10%)	1.9 ～ 2.9
事 業 費	(±10%)	2.2 ～ 2.6
事業期間	(±20%)	2.0 ～ 2.7

【残事業】

交 通 量	(±10%)	1.9 ～ 3.0
事 業 費	(±10%)	2.2 ～ 2.6
事業期間	(±20%)	2.1 ～ 2.7

※費用及び便益の合計は表示桁数の関係で計算値と一致しない場合がある。

4. 費用便益分析には含まれない多様な効果（一部効果について貨幣換算化）

項目			全体事業	残事業
費用		事業費	276億円	272億円
		維持管理費	31億円	31億円
		更新費	—	—
		総費用（C）	307億円	303億円
効果	便益	走行時間短縮便益	707億円	707億円
		走行経費減少便益	12億円	12億円
		交通事故減少便益	1億円	1億円
		総便益	719億円	719億円
	その他の効果	時間信頼性の向上	所要時間のバラツキを考慮した余裕時間が短縮（約231億円）	
		地球環境の保全	CO2排出量削減により環境改善に寄与（約2.6億円）	
		医療支援	救急医療のアクセス効果の向上（約729億円）	
		地域産業支援・物流支援	自動車部品 及び 三陸沿岸の水産品の円滑な輸送経路の交通確保	
	総便益（ΣB）		719億円 ＋ その他の効果	719億円 ＋ その他の効果

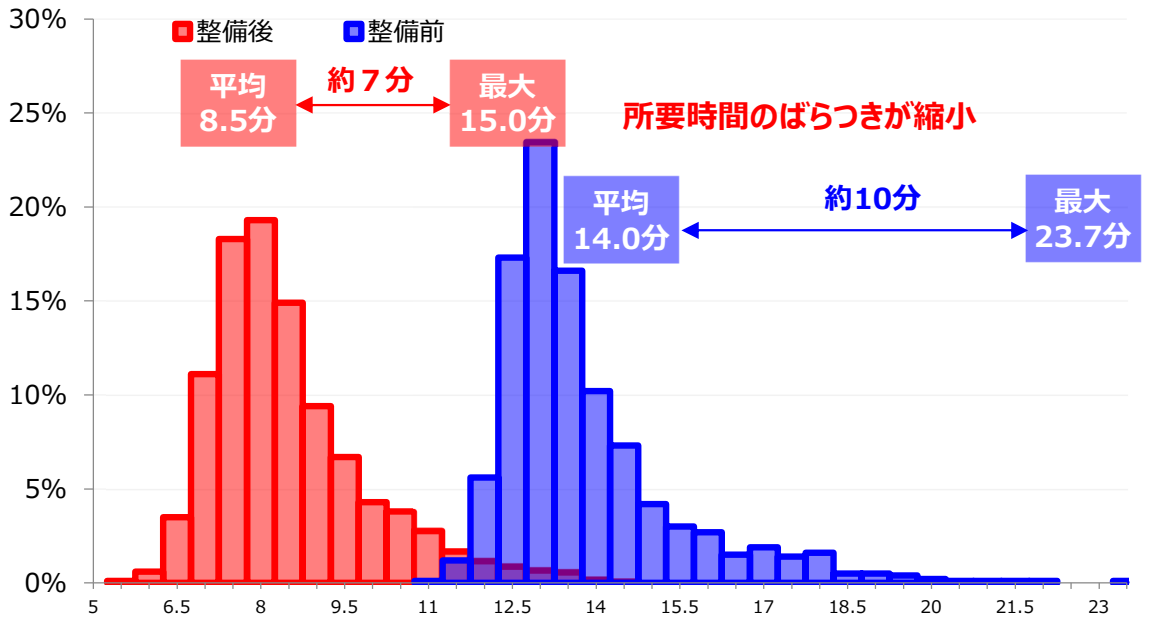
4. 費用便益分析には含まれない多様な効果　①時間信頼性の向上

関連SDGs

◆盛岡南道路の整備により所要時間のばらつきを縮小する効果が見込まれる。
◆盛岡南道路の整備による時間信頼性向上効果を貨幣換算すると約231億円/50年の効果が見込まれる。



▼（参考）時間信頼性向上イメージ



出典：ETC2.0データ、R5.9-10平日・12h平均
※整備前：現道区間の速度分布
整備後：盛岡南道路区間の速度分布
（盛岡西バイパスにおける所要時間分布を基に作成　※バイパス周辺の商業施設の影響と考えられる外れ値を除外）

▼時間信頼性の向上

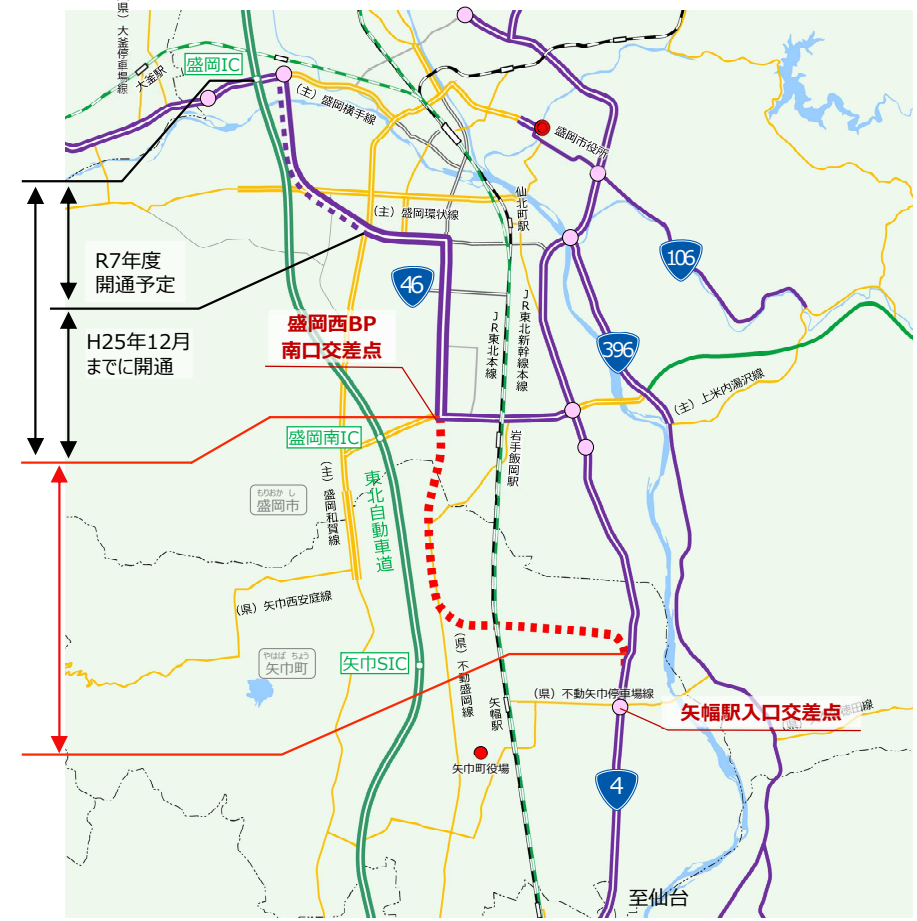
	総余裕時間費用（億円/年）		時間信頼性向上効果（億円/年）
	整備前	整備後	
盛岡南道路	199億円	180億円	19.1億円

「時間信頼性向上便益算定マニュアル（案）」に基づき
時間信頼性向上効果を算定した結果、
約231億円/50年の効果が見込まれる

4. 費用便益分析には含まれない多様な効果　②地球環境の保全

関連SDGs

◆盛岡南道路の整備による速度改善・走行距離短縮によって、CO_2排出量が6,776トンの削減が見込まれる。
◆盛岡南道路の整備によるCO_2排出量の削減効果を貨幣換算すると約2.6億円/50年の効果が見込まれる。



凡例
：開通済
：事業中
□□□□：未事業化

その他道路凡例
道路種別
：評価対象区間
：高規格道路
：一般国道
：主要地方道・県道

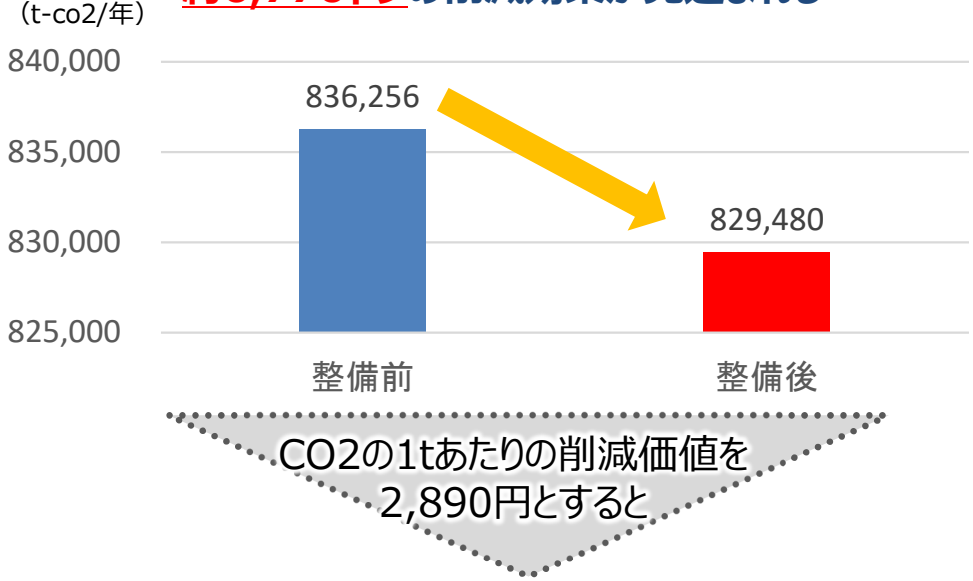
車線数
：4車線
：2車線

その他凡例
：市役所
：役場
：主要渋滞箇所
※主要渋滞箇所は国道4・46号のみ表示

▼CO_2排出量削減効果

「外部効果の便益計測手法の手引き・案」の排出係数に基づきCO2排出削減量を算定した結果、

約6,776トンの削減効果が見込まれる



CO2の1tあたりの削減価値を2,890円とすると

「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針（共通編）」のに基づきCO2排出削減効果を貨幣換算した結果、

約2.6億円/50年の効果が見込まれる

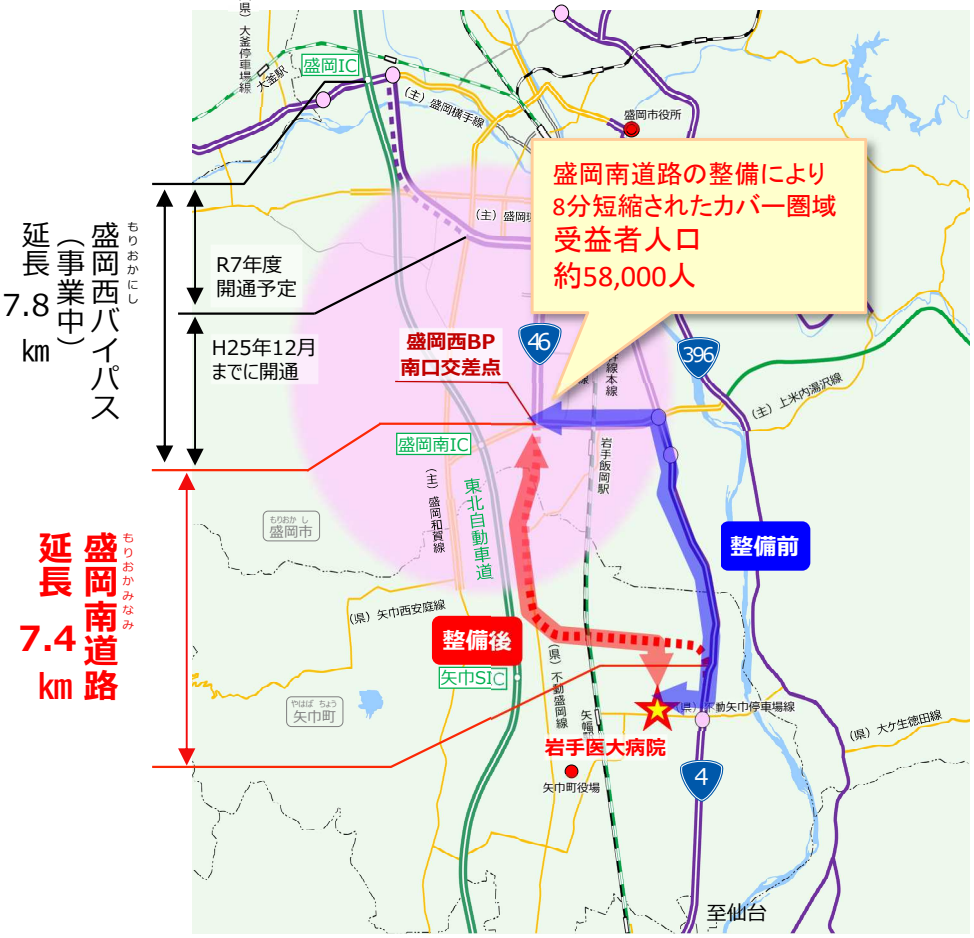
※H21.6「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針（共通編）」の炭素換算トンあたりCO2の貨幣評価原単位
10,600円/ｔ-Cより算定
（10,600円/ｔ-C ×0.273（換算係数）＝2,890円/ｔ-CO2）

4. 費用便益分析には含まれない多様な効果　③医療支援

関連SDGs

◆盛岡南道路の整備により、盛岡市盛南地区から高次救急医療施設へのアクセス時間が約8分短縮し、呼吸停止・多量出血の救命率が改善。

◆時間短縮の受益者人口は約5.8万人となり、救命率の改善によって生じるアクセス向上の効果は約729億円/50年。



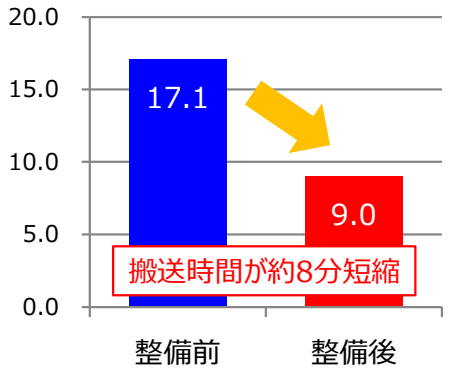
凡例
- 開通済
- 事業中
- 未事業化

その他道路凡例
- 道路種別：評価対象区間／高規格道路／一般国道／主要地方道・県道
- 車線数：4車線／2車線

その他凡例
- 市役所
- 役場
- 主要渋滞箇所

※主要渋滞箇所は国道4・46号のみ表示

▼西BP南口交差点から岩手医科大学附属病院までの平均搬送時間



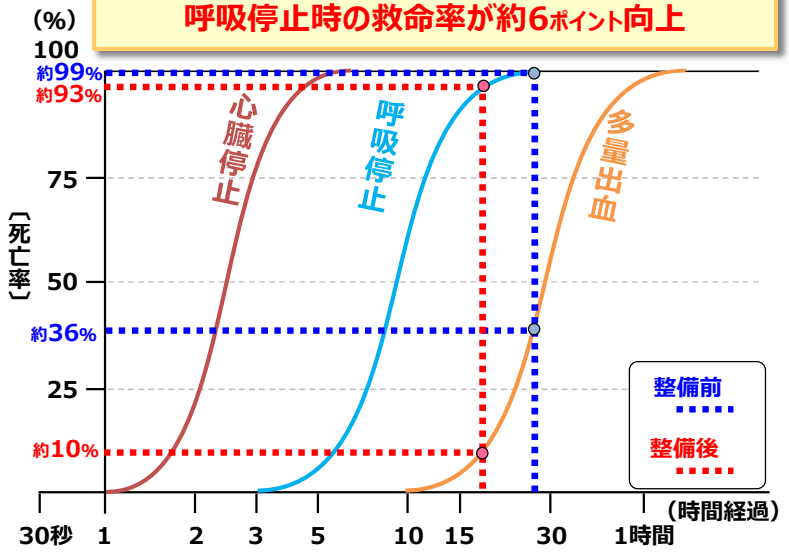
資料：R3全国道路・街路交通情勢調査（昼間非混雑時速度）

※搬送時間はR3全国道路・街路交通情勢調査（昼間非混雑時旅行速度）で算出

※時間経過は搬送時間のほかに発生から通報にかかる所要時間の平均値（8.5分）を加えた値

▼ カーラーの救命率曲線

盛岡南地区からの搬送は、盛岡南道路整備により、多量出血時の救命率が約26ポイント向上 呼吸停止時の救命率が約6ポイント向上



救急医療のアクセス向上効果※1

- **1年間に生じる救命件数の総額**
  - ⇨ 呼吸停止・多量出血による救命人数※2 × 人命価値※3
  - ＝ 約24人×2.26億円
  - ＝ 約54.3億円／年間

（50年間の現在価値化）

盛岡南道路の整備による
高次救急医療活動のアクセス向上効果
約729億円/50年の救命効果と試算

※1:アクセス向上効果＝救急車の現場へのアクセス向上＋現場から病院へのアクセス向上

※2:受益人口に救急車出動率及び自家用車による搬送率を乗じ、搬送人数を算出。搬送人数に状態別の搬送人数比率及び整備前後の死亡率を乗じ算出

※3:公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針より

5. 事業の必要性に関する視点

1)事業をめぐる社会情勢等に関する視点
　事業の効果や必要性、周辺環境等に変化が無い。
2)事業の投資効果
　B/Cが事業全体で2.3【4%】、3.6【2%】、4.7【1%】 残事業で2.4【4%】、3.7【2%】、4.7【1%】
3)費用便益には含まれない多様な効果が期待される。（一部効果について貨幣換算化）
4)事業の進捗状況
　事業進捗率（R6年3月末時点）は約１％。

6. 事業の進捗の見込みの視点

○道路設計及び各種調整が完了した区間から、用地調査に着手予定。

7. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

○新技術の積極的な活用等により、コスト縮減に取り組む。

8. 地方公共団体等の意見

○岩手県の意見
1　「対応方針（原案）」案に対して異議ありません。
2　盛岡南道路は、国道４号の慢性的な交通渋滞の緩和や周辺に集積している物流拠点への円滑な物流の確保に加え、県内唯一の高度救命救急センターである岩手医科大学附属病院へのアクセス向上に大きな効果が期待されることから、コスト縮減にも最大限に配慮しながら、事業の進捗を図るようお願いします。

9. 対応方針（原案）

対応方針：事業継続
（理由）交通の速達性・安全性の向上、地域産業の活性化の支援、救急医療活動の支援等のため、早期整備の必要性が高い。

10. 事業の経緯・進捗状況

○事業の経緯

年　度	主な経緯
令和4年度【事業化】	測量　※土地立入説明会　令和4年8月2日～8月9日開催
令和5年度	地質調査、道路設計
令和6年度（予定）	地質調査、道路設計

○事業の進捗

・現在、測量を終え今年度は全区間で道路設計を実施中。
・当該事業に隣接する盛岡南地区物流拠点計画（R4年6月策定）と調整し、アクセス道路の設計を決定する必要があるため、盛岡市と協議をR6年3月に実施
・同じく当該事業に隣接する、矢次（やつぎ）地区ほ場整備事業についても排水計画を決定する 必要があるため、岩手県と協議を実施中
・今後、道路設計及び各種調整が完了した区間から、用地調査に着手予定

